

『歴史総合，日本史探究』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

新課程の科目として初となる共通テスト科目『歴史総合，日本史探究』が実施された。歴史科目としては「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の2科目・1出題範囲があり，今年度は『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第1問が『歴史総合，日本史探究』の，第2問が『歴史総合，世界史探究』の，それぞれ第1問となった。

歴史総合は，近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え，資料を活用しながら歴史の学び方を習得し，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察，構想する科目として設置され，日本史探究は，歴史総合を踏まえ，従前の日本史A，日本史Bのねらいを発展的に継承しつつ，我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め，各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し，歴史にみられる課題を把握し，地域や日本，世界の歴史の関わりを踏まえ，現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとする科目として設置された。

なお，評価に当たっては，報告書（本試験）21ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第1問と同じ。

第2問 木綿に関する博物館の展示を基に，古代から近代に至る政治史，外交史，社会史，経済史及び文化史について問う問題。

問1 二つの絵画資料について述べた二文の正誤の組合せを選択する問題。解説文と図1の情報に基づき正誤を判断する力とともに，平安貴族の男性の正装である束帯に関する知識が求められた。

問2 室町時代の外交関係に関する解説文の空欄に入る語句の組合せを選択する問題。日朝貿易及び鉄砲の伝来に関する基礎的な知識が求められた。

問3 江戸時代の農書に関する展示をまとめたメモに関連する事柄について述べた四文を読み，最も適当なものを選択する問題。メモを正確に読み取る技能と農書に関する知識が求められた。

問4 明治政府の農業政策について述べた四文を読み，最も適当なものを選択する問題。明治政府の農業政策に関する正しい知識が求められた。

問5 衣服の変化をテーマとした，各時代の特徴について述べた四文を読み，適当でないものを選択する問題。古代・中世・近世・近現代の風俗に関する知識が求められた。ジーンズの流行時期を判断する際に歴史総合で学んだ知識も活用するという新しい形式の設問である。

第3問 古代日本の特徴に関する探究活動の場面を基に，古墳時代から平安時代までの政治史と文化史について問う問題。

問1 古代における地方の役人について述べた四文を読み，適当でないものを選択する問題。古代の地方制度に関する基本的な知識が求められた。

問2 仏教の地方への広がりについて述べた四文を読み，最も適当なものを選択する問題。奈

良時代と平安時代の仏教の特徴に関する理解が求められた。

問3 遷都と東北地方に関する政策をまとめた表の空欄に適する文の組合せを選択する問題。
古代における朝廷の対蝦夷政策に関する基本的な知識が求められた。

問4 9世紀における東北地方と中央政府との関係に関する資料について述べた二文の正誤の組合せを選択する問題。資料を正確に読み取る技能と、駅制に関する知識が求められた。

問5 蝦夷が都にきた様子を示す資料について述べた文の正しいものの組合せを選択する問題。資料を丁寧に読み取る技能と、律令制度に関する正確な理解が求められた。

第4問 「中世における仏教と国家・社会との関係」をテーマに鎌倉時代と室町時代の政治史、文化史について問う問題。

問1 東大寺大仏の焼失の時期を年代順に示された中世の戦乱の中に位置付ける問題。資料を正確に読み取る技能とともに、各戦乱に関する正しい知識が求められた。単に歴史的事象の名称を覚えるのではなく、事象について正確な理解を必要とする良問である。

問2 東大寺に再建された建築物と制作された仏像の適切な組合せを選択する問題で、鎌倉文化に関する基礎的な知識が求められた。

問3 会話文中の内容について考察した二文を読み、正誤の組合せを選択する問題。資料を正確に読み解き、資料から収集した情報と考察文の内容とを比較・検証する思考力・判断力・表現力等が求められた。

問4 資料に関して考察した四文を読み、正しいものの組合せを選択する問題。資料から正確に情報を読み取る技能とともに、その情報と室町時代の仏教に関する知識とを統合する思考力・判断力・表現力等が求められた。

問5 中世における仏教と国家・社会の関係について述べた四文を読み、適当でないものを選択する問題。中世の仏教の特徴に関する理解とともに、会話文を丁寧に読み、根拠となる情報を収集する技能が求められる、大問を総括する設問であった。

第5問 江戸時代の大名と藩を基に、江戸時代の政治史、社会史、経済史について問う問題。

問1 江戸時代の大名とそれ以前の守護や大名について述べた四文を読み、適当でないものを選択する問題。室町時代の守護に関する理解が求められた。

問2 江戸幕府の大名政策に関する三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。江戸幕府の大名政策の推移などの正しい知識が求められた。

問3 諸藩の財政運営に関する資料について述べた四文を読み、正しいものの組合せを選択する問題。資料を正確に読み取る技能と、江戸時代の社会思想に関する基礎的な知識が求められた。

問4 江戸時代の藩の特徴やその歴史的な変化などをまとめた三つのメモの正誤を判断する問題。幕藩体制、江戸後期の藩政改革、廃藩置県に関する理解が求められた。

問5 三つの時期の人口上位10都市をまとめた表について述べた四文を読み、最も適当なものを選択する問題。都市に関する知識とともに、正確に表を読み取る技能が求められた。

第6問 胡桃澤盛という実在の人物が遺した日記に関する会話文を基に、大正時代、昭和時代の政治史、経済史、文化史について問う問題。

問1 第二次護憲運動の結果について述べた四文を読み、正しいものの組合せを選択する問題。会話文中のデモ行進が第二次護憲運動であると判断する力とともに、その結果に関する正しい知識が求められた。

問2 日記の一部分を示した資料と会話文を基に、資料の内容を述べた二文を読み、その正誤の組合せを選択する問題。会話文と資料、それぞれから正確に情報を読み取る技能と、男子

普通選挙制度に関する知識を統合する思考力・判断力・表現力等が求められた。

問3 1920年代の文化や娯楽について述べた四文を読み，適当でないものを選択する問題。大正末期から昭和初期にかけての文化史に関する基礎的な知識が求められた。

問4 満洲移民に関する三つの資料を古いものから年代順に配列する問題。資料を丁寧に読み，時期を判断するとともに，満洲移民の背景となる昭和初期の政治及び経済の推移・展開に関する知識を統合させる思考力・判断力・表現力等が求められた。

問5 1950年代と1960年代の年齢階層別の農業就業者数と就業者率を示した表に対する問いと考察の組合せを選択する問題。表から情報を正確に読み取る技能とともに，戦後の経済復興政策や農業政策に関する知識が求められた。

3 分量・程度

学習指導要領の趣旨を踏まえ，知識及び技能に加えて思考力・判断力・表現力等を問う問題が今年度も多く出題された。60分の試験時間に対して，大問数は旧課程の『日本史B』と同じ6問であったが，小問数は1問増の33問であった。第1問は「歴史総合」から，第2問から第6問までは「日本史探究」から出題され，第2問は全時代融合，第3問は古代，第4問は中世，第5問は近世，第6問は近代・現代という配置で，古代から現代まで偏りのない構成であった。「歴史総合」の大問が新設されたことで，『日本史B』では二つあった近代・現代の大問が一つになったが，第1問（「歴史総合」）で日本に関わる設問が多いため，近代・現代の配点比重に関しては，総じて従来からの大きな変動はなかったといえる。全体的に外交に関する問いがやや少ないものの，政治史，外交史，社会史，経済史，文化史等各分野の基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問うものが中心であり，分量・程度とも適切であった。

「歴史総合」分野については，歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程が重視されており，歴史の包括的な概念，構造を捉えさせたい意図を感じさせる問題であった。各小問がいわゆる世界史分野，日本史分野で明確に区分されるものではないことに留意したい。

受験者にとって初見と思われる資料を読み取り，メモやノート等から得られる情報と既得知識を関連付けながら，検証・考察する力が例年以上に求められた。提示された資料は7種26点（文字資料10点，写真5点，絵画4点，表4点，年表・地図・グラフ各1点）と量・質とも充実しており，昨年度と比較して種類に多様性がみられたこと，文字資料10点のうち5点は現代語訳されたものであることが，本試験同様今年度の大きな特長である。昨年度は資料全般に占める文字資料の割合が高く，古文読解を不得手とする受験者には難解な傾向が否めなかったが，今年度は文字資料に偏重せず，多種多様な資料が提示された。

資料から歴史的な見方・考え方を働かせて検証・考察できるよう工夫された出題もあり，特に問いと考察の正しい組合せを問う **33** は，戦後の日本の社会構造についての正しい理解を図る良問であった。また，近年よく出題されていた発言の正誤を問う問題は，今年度は本試験を含めみられなかったが，文字の記載がない写真のみの選択肢から正しいものの組合せを問う **20** や，文字資料と絵画という異種の資料が混合された選択肢の年代整序を問う **32** は，従来の試験ではほぼ出題されなかった形式である。問題作成には並々ならぬ矜持と膨大な労力を要したであろうが，新境地を開拓した以上の点については，高等学校教科担当教員として高く評価したい。

4 表現・形式

問題文の表現については，資料の提示を含め明確であった。資料に関しては上述の通り，現代語訳された文字資料が多く提示され，必要な箇所には脚注が付される等，受験者の読解力ではなく，

あくまで歴史の正しい理解を問うことに注力した問題となるよう考慮されていた。

問題の形式については、学習や探究の過程を設定した大問が6問中4問と割合が高いことは例年通りで、その過程で作成したというメモやノート等の資料が多くみられた。また、各大問における最終の小問に、歴史的な事象や概念、構造に関して検証・考察する問いが設けられていた。

各大問で提示された題材については、第1問は日常生活における時間概念、第2問は博物館での木綿に関する展示、第3問は古代日本の特徴、第4問は中世における仏教と国家・社会との関係、第5問は江戸時代の大名と藩、第6問は胡桃澤盛の日記の読解がそれぞれテーマとして取り上げられた。第6問では、実在の人物が遺した日記の読解に取り組む二人の会話を軸に問題が展開され、資料と歴史的事象を連結させた問題設定である。戦時中に村長の立場で国策に従い、大勢の村人を開拓団として満洲に送り出したが、後にソ連軍の満洲侵攻によって村人たちが命を落としたことに対して罪の意識に苛まれ、自死に至った胡桃澤盛の日記は、戦争の実態について考える教材としても興味深く、今後の授業で活用したいと思うものであった。

小問でみると、33問のうち、空欄に適する語句や文の組合せを選択する問題が3問、二文の組合せを判断する問題が1問、正文を選択する問題が7問、誤文を選択する問題が5問、正文の組合せを判断する問題が6問、二文または三文の正誤の組合せを判断する問題が6問、年代の整序・選択問題が3問、地図・写真等の資料から正しいものを選択または正しいものの組合せを判断する問題が2問であり、バランスの取れた出題であった。

5 ま と め（総括的な評価）

新教育課程により、従来の『日本史A』『日本史B』から大きく変更となった『歴史総合、日本史探究』最初の共通テストであった。新教育課程で学び、試験当日まで不安を抱えて臨んだ受験者もいたであろうが、各種資料の正確な読み取りが求められる点や、ある事柄を他の事柄と関連付けながら、歴史的事実に関する内容や背景、因果関係等を問う点は従来通りであり、おおむね想定内の内容・範囲ではなかっただろうか。知識に裏付けされた思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致しており、高等学校の現場では、今後は歴史総合や日本史探究においても、これらの資質・能力を育成することが求められる。

機械的・短絡的な思考や知識で解答させるのではなく、資料で示される歴史的事実を、正確な知識と関連付けて判断させる問いが多くみられ、受験者の基本的事項の正確な理解を適正に評価する問題であった。次年度以降もさらにブラッシュアップされた内容を期待したい。

最後に、共通テスト問題作成に関係した方々の多大な御尽力に、心から敬意を表したい。